

◆陳情の趣旨を改めてご説明ください。

四番町で3人の子育てをしております〇〇と申します。

番町がこれからも安心して子育てができる町であり続けて欲しい、このままではその魅力が失われてしまうのではという危機感を持ってこの場に参りました。また、職場のある銀座において、数年来「銀座街づくり会議」の評議員としても街づくりに携わってきておりますので、銀座から見た番町という視点でもお話しをさせていただければと存じます。

子どもを番町幼稚園、小学校に通わせておりますと、本来麴町小学校の学区にお住まいのご家庭から同級生が来ていることに気づきます。麴町小学校は近隣にマンションが増えたことにより、もうパンク状態になっているとのこと。

今回協議会にて検討されてきた方向性で日テレ通り沿道のまちづくりを大幅に見直すことは、番町小学校学区にてさらなるマンション開発が進むことを意味すると思えます。

番町小学校のキャパシティ以上のマンション供給を可能とする地区計画変更は、千代田区として進めるべきではないと思えます。

現在の協議会のメンバーには小学校や幼稚園の視点、乳幼児や児童を持つ家庭の視点をお持ちの方は見当たりません。改めてこうした視点をもとに協議を進めていただきたく存じます。

また、「地元住民からの要望」として、一つの目玉として謳われております安全に盆踊りの開催できる「広場」ですが、現在の住民や就労者の憩いの場としての番町の庭のようなものであれば歓迎しますが、来年2019年から稼働がはじまるといわれている日本テレビさんの新スタジオ棟と、商業ビルを計画されているといわれる新しい建物の間に、地下鉄の入り口も備えてその広場が出来るのであれば、テレビ番組収録の観覧にこられた方、商業施設にこられた方など、365日不特定多数の来街者が集まる、現在の番町の庭とは全く異なる性格の広場になると思えます。千代田区として住民や就労者のための広場をこのエリアに誘導するのであれば、スタジオや商業施設からは離れたところに作るべきと考えますし、広場が現在計画されている場所にできるのであれば、子どもに安心して遊んでおいでとは言えません。

超高層を許容すれば、広場が出来、バリアフリー化もでき、歩道を広げてくださるので、町会長さん達はこれとはとても良い話だと、先ほどの参考人陳述でおっしゃっていたようですが、超高層ができ、広場ができれば流入人口が増え、歩道がこの区画だけ広がっても狭い歩道がすべて拡幅されない限りは逆に危険は増し

ます。バリアフリーを作っても、人が溢れて危険なエリアになったらご老人や車椅子の方は近寄れません。

住民の立場から申し上げますと、番町に広域からの集客を前提とした商業施設は閑静な住宅街としての質や子どもを安心して通わせられる文教地区の価値を損なうおそれがあるため必要ないことを断言させていただきたいと思います。

私は元々この地域で生まれ育った人間ですが、千代田区の子育て環境の素晴らしさを評価するからこそ、これからも住み続けたいと思っております。

ぜひ乳幼児や児童の子育て環境という視点と、超高層を可能として流入人口が激増したら何が起きるかにも思いを馳せていただいた上で引き続き慎重なるご審議をお願いしたいと思います。

また、毎日日テレ通りを使って通勤する者として、日テレ通りの交通渋滞が物凄く心配です。現在の計画では、アジャンタとセブンイレブンのある番町中央通りと日テレ通りの交差点からすべての車両が二番町の再開発エリアに入ってくることになると思います。

また、この区画の中に、コミュニティバス風ぐるまの発着場、日テレさんの汐留本社との連絡バス、タクシー待合、麴町駅への送迎の車寄せ、地域の中小ビルの付置義務駐車場を引き受ける、荷捌きの場を提供する、などといった自動車がすべてこの交差点を通過してくる計画になっていると思います。

右左折レーンの取れない日テレ通りにおいて、この計画は交通のインフラのキャパシティを大きく上回ってしまうと危惧しています。

麴町駅も、ベルギー大使館の開発や住友不動産のオフィスビル供給などによって、朝の番町側改札の混雑はすでに相当なものがあります。

銀座に目を転じますと、銀座通りは幅員が日テレ通りの2倍の27mです。

片側二車線と十分な歩道が確保されています。その環境であっても最大高さは56mに制限されております。

日テレ通りと銀座通りを毎日通る生活者の感覚として、この通りには60mですら高過ぎる。現行の地区計画の下であっても相当な流入交通量が増えるわけです。

これをさらに緩和するようなことになりましたと、将来渋滞だらけで自宅に帰りたくても帰れない、出かけたたくても出かけられないという町になってしまうと思います。そんな町になってしまったら番町の住宅地としての魅力は半減どころか霧消してしまいます。

今回「日テレ通り沿道」についての検討を千代田区としてされているのですから、具体的な事業計画が出る前に、交通や学校、上下水道などのインフラがパンクしないようなアセスメントを行政が責任をもって行うべきではないでしょうか？

規制緩和したところに個別事業者が最大限の物件供給を行ったことですのでインフラがパンクしている中央区の勝どき、江東区の豊洲、川崎市の武蔵小杉などの後追いをどうしてしなければならないのか理解に苦しみます。

計画前のアセスメントをぜひお願いしたいと思います。

◆現行地区計画の評価についてご意見を

7月28日に番町の町並みを守る会主催にて、都市計画の世界の第一人者である、東京大学名誉教授伊藤滋先生による「住みたい街番町を作るには」というテーマでご講演いただきました。講演の前に7月の大変暑い中、実際に番町の町並みをご自身の足で歩いてきていただきました。その感想として、六番町奇数番地の高さ22m—25mの地区計画が走っているエリアは文化の香り高い素晴らしい街区であると絶賛されましたが、50m級のマンションが林立する私の住む四番町に関しては、道も日が当たらず暗く、千代田区には日影規制が無い将来はマンションが隙間無く建って環境が劣悪になり、資産価値も暴落するぞと警鐘を鳴らされたことに驚きました。

伊藤滋先生のみならず、8月29日に勉強会講師を務めていただいた東京大学の城所先生も、60mの現行地区計画でもこのエリアには高過ぎる、容積が大き過ぎるとご発言されており、このほかにも民間、学際エリアでご活躍の専門家の方が、「60mでも高過ぎる」とのご意見をいただいております。私自身は現行地区計画を評価していた立場でしたが、そういった専門家の方々のご意見を拝聴するにつけ、現時点では現行地区計画を守らなくては将来もっと大変なことになってしまうと思っております。

銀座の街づくりにおいては、商業の町銀座の主役である各商店のオーナーの方や、町会、通り会、業界団体など、銀座で活動するありとあらゆる主体が集まって全銀座会という組織を運営しており、オール銀座を標榜できるメンバー構成に加えまして、官僚出身、建築家、都市計画の3名の専門家の方にアドバイザーとして定点観測と、個別の開発計画についても大所高所からのアドバイスをいただきながら進めてきております。そうしたことで、この全銀座会が銀座の意思決定機関として行政からも認められています。

番町にて同じようなものを作ることはできないかもしれませんが、考え方としては同じように、すなわち当該エリアのなるべく多くの声を集める努力をすること、特に番町は住宅エリアですので、一番町三番町含む各町の住民の声が集まるようにすること。子育て世代や子育てに責任のある幼稚園保育園小学校の声を集めること、そして複数の専門家の方にキチンと対価をお支払いして、存分に

知見を発揮していただくこと。

これを千代田区には求めたいと思います。

現在「日本テレビ通り沿道まちづくり構想」のテーマが「にぎわいの創出」となっておりますが、最上位の都市計画マスタープランでも、現行地区計画でも謳われております「閑静な住宅地であること」「歴史ある文教地区であること」の質を高める方向性と、「住み続けたい町」をどうすれば作ることができるかというところに一旦立ち返って、専門家の知見もお借りしながら、町会長さん達にも引き続きお知恵をお借りしつつオール番町での議論を千代田区の責任において進めていただきたいとお伝えさせていただき、私の意見陳述を終わらせていただきます。